

平成 20, 21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月
広島大学

目 次

資料 1-1-1	平成 21 年度（前期）学生授業評価アンケート結果（抜粋）	1
資料 1-1-2	プログラムの改善事例	2
資料 1-1-3	平成 21 年度（前期）学生授業評価アンケート結果（抜粋）	3
資料 1-1-4	外国語教育の企画，立案，実施体制	4
資料 1-1-5	外部資格試験等の結果	5
資料 1-1-6	学術論文の質の検証結果	6
資料 1-2-1	教員養成広大スタンダード(抜粋)	7
資料 1-2-2	英語の自学自習コンテンツの利用状況	8
資料 2-1-1	地域貢献研究採択状況	9
資料 2-1-2	産学官連携による新商品発表会	10
資料 2-1-3	工学研究科の新専攻に対応する産業分野一覧	11
資料 2-1-4	地域連携センターにおける学術相談件数の状況	12
資料 2-1-5	科学わくわくプロジェクト実施状況	12
資料 2-2-1	技術センター運営体制図	13

資料 1-1-1 平成 21 年度（前期）学生授業評価アンケート結果（抜粋）

中期計画番号	設 問	対象授業科目	開講科目数(全体)	アンケート実施科目数	受講者数	回答者数	強くそう思う		そう思う		あまりそう思わない (外国語:そうは思わない)		そう思わない (外国語:まったくそう思わない)		
							人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	
1-①	あなたは、知的活動への動機づけを高めることによって自主的な学習を促すことを目的とする「教養ゼミ」を1セメスターで受講したことにより、「科学的な思考方法」を養うことができたと思いますか。	教養ゼミ ※1年次生以上(H16~21年度入学生)の全学部生を対象に11~12月にアンケートを実施	1学年あたり約230	1学年あたり約230	約10000	2768	354	12.8	1442	52.1	784	28.3	188	6.8	
	2768					377	13.6	1553	56.1	685	24.7	153	5.5		
1-①	あなたは、この授業を受けて、語学力が向上したと思いますか。	コミュニケーションI	130	130	5062	3447	681	19.8	1958	56.8	664	19.3	144	4.2	
		コミュニケーションII	3	3	117	42	10	23.8	23	54.8	7	16.7	2	4.8	
		コミュニケーションIII	59	59	2525	1513	199	13.2	879	58.1	338	22.3	97	6.4	
		ベーシック外国語	141	113	4820	2498	931	37.3	1362	54.5	164	6.6	41	1.6	
		情報活用基礎	9	9	1476	914	138	15.1	521	57.0	194	21.2	61	6.7	
1-①	あなたは、この科目を受講したことにより、「情報処理能力」を養うことができたと思いますか。	情報活用演習	9	9	590	443	118	26.6	248	56.0	59	13.3	18	4.1	
1-④	あなたは、この科目を受講したことにより、「社会でも通用する基礎力」を養うことができたと思いますか。（「社会でも通用する基礎力」とは、専門分野の正確な知識、専門分野以外の幅広い教養、人の話を正確に理解できる能力、相手が理解できる様に自分の意見を論理的に述べる能力、協調性などを言います。）	人文科学領域	25	25	2350	1250	196	15.7	661	52.9	305	24.4	88	7.0	
		社会科学領域	29	29	3235	1872	500	26.7	1043	55.7	279	14.9	50	2.7	
		自然科学領域	13	13	856	481	83	17.3	265	55.1	110	22.9	23	4.8	
		外国語領域	28	23	451	179	36	20.1	99	55.3	39	21.8	5	2.8	
		複合領域	48	48	4511	2586	774	29.9	1530	59.2	245	9.5	37	1.4	
		すべての領域科目	136	134	9452	6009	1404	23.4	3268	54.4	968	16.1	369	6.1	
	1-④	あなたは、この科目を受講したことにより、「実践的な応用力」を養うことができたと思いますか。（「実践的な応用力」とは、問題を発見する能力、問題を解決する道筋を考える能力、解決まで実行できる能力を言います。）	人文科学領域	25	25	2350	1250	189	15.1	603	48.2	368	29.4	90	7.2
			社会科学領域	29	29	3235	1871	428	22.9	984	52.6	382	20.4	77	4.1
			自然科学領域	13	13	856	480	79	16.5	239	49.8	138	28.8	24	5.0
			外国語領域	28	23	451	182	35	19.2	87	47.8	52	28.6	8	4.4
			複合領域	48	48	4511	2587	673	26.0	1468	56.7	406	15.7	40	1.5
1-④	あなたは、この科目を受講したことにより、「大学院教育に向けての基礎能力」を養うことができたと思いますか。	すべての基盤科目	136	134	9452	6009	1404	23.4	3268	54.4	968	16.1	369	6.1	

(出典：平成 21 年度（前期）学生授業評価アンケート集計結果)

資料 1-1-2 プログラムの改善事例

(プログラム名)

輸送機器環境工学プログラム

○改善計画：抜粋

2-2) 基準 9 および基準 10

自己点検評価は「A」としているが、到達度評価の作業フローと成績開示方法について、明確な取り決めがなかった。「成績評価と開示の作業フロー」という資料(VESP 会議資料 2009.10)を作成し、担当教員会にて承認を得た。なお、担当チューターのみならず、プログラム担当教員全てが、全学生の到達度評価を把握できるようにした。なお、これにあわせて、各科目に対応した大項目・小項目の評価基準も再度確認した。これによって、以下の効果が期待できる。

- ・年 2 回のチューター面談および成績配布の際に、学生は到達度評価結果を把握し、チューターから適切なコメントを受けることが可能となる。
- ・全教員で全学生の到達度評価を把握できるため、当該プログラムのメリット・デメリットをバランスよく抽出できる。そのため、プログラム改善の基礎的な判断材料とすることが可能となる。

○改善状況

承認済みの「成績評価と開示の作業フロー」に従い、各学年のチューターに成績（達成度評価）を配布し、3月末に実施した学生個別面談に利用した。

(プログラム名)

社会基盤環境工学プログラム

○改善計画：抜粋

2-1) 基準 7-1, 基準 8-1, 基準 9-1

教育基準 7-1 (D)：これまで各科目別ワーキングにおいて学生の科目ごとの平均点や単位修得率に着目して審議してきたが、GPA を指標として教育プログラムの点検に用いることは行っていなかった。教育プログラム点検・改善委員会において GPA の年度ごとの推移に着目した検討を行うこととした。

○改善状況

教育プログラム点検・改善システム運用規定を改善し、「教員による成績評価結果を GPA 等を用いてとりまとめ、学習教育目標の達成度を点検する」として、GPA を評価に用いることを明示した。

(プログラム名)

障害児教育教員養成プログラム

特別支援教育教員養成プログラム

○改善計画：抜粋

2-1) 基準 2-1, 基準 2-2, 基準 3-1, 基準 3-2, 基準 4-1, 基準 4-2, 基準 5-1, 基準 5-2

プログラム担当教員会と講座・センター会議メンバーが同一であり、さらに毎週定例の講座・センター会議を実施している。このため、授業実施にかかわる問題については授業担当者から発議があれば、その都度検討を重ねてきた。今後は、発議の有無にかかわらず、授業期間終了後の 2 月、8 月に全ての授業において計画通りの授業の実施、適切な成績評価、単位の実質化、到達評価に沿った授業の実施等を確認し、問題点があれば改善策を検討する。このことにより、次の効果が期待できる。

基準 2-1, 2-2 に示される「授業の実施」、基準 3-1, 3-2 に示される「成績評価」、基準 4-1, 4-2 に示される「単位の実質化」、基準 5-1, 5-2 に示される「各科目における到達度評価結果」について全科目において点検できる。

2-3) 基準 10-1

成績開示前面談において、学生自身に到達度の確認と学習のアドバイスをを行っているが、学生自身が教育の効果を判断しているか否かについては確認をとってこなかった。今後は、この視点をもって開示前面談にあたり、問題点があれば 3 月、9 月のプログラム担当教員会で改善策を検討する。このことにより、次の効果が期待できる。

基準 10-1 に示される「学生の自己評価に基づいた教育効果の確認」を全科目において点検できる。

○改善状況)

平成 21 年 10 月 8 日のプログラム担当教員会において、①単位に見合った十分な学習時間を学生が費やすような取組みをしていること、②適切な量と質を有する学習を学生が実施しているか確認し、②に関しては平成 21 年度後期の各授業において自主学習を促した。

また、平成 22 年 3 月 4 日のプログラム担当教員会においても、同様の検討を行い、成績開示前の面談においてチューター及び指導教員が適切な量と質を有する自主学習を行うように指導した。

(出典：学士課程会議資料)

資料 1-1-3 平成 21 年度（前期）学生授業評価アンケート結果（抜粋）

中期計画番号	設 問	対象授業科目	開講科目数(全体)	アンケート実施科目数	受講者数	回答者数	強くそう思う		そう思う		あまりそう思わない (外国語:そうは思わない)		そう思わない (外国語:まったくそう思わない)	
							人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
1-①	あなたは、知的活動への動機づけを高めることによって自主的な学習を促すことを目的とする「教養ゼミ」を1セメスターで受講したことにより、「 <u>科学的な思考方法</u> 」を養うことができましたか。と思いますか。	教養ゼミ ※1年次生以上(H16~21年度入学生)の全学部生を対象に11~12月にアンケートを実施	1学年あたり約230	1学年あたり約230	約10000	2768	354	12.8	1442	52.1	784	28.3	188	6.8
	2768						377	13.6	1553	56.1	685	24.7	153	5.5
1-①	あなたは、この授業を受けて、 <u>語学力</u> が向上したと思いますか。	コミュニケーションI	130	130	5062	3447	681	19.8	1958	56.8	664	19.3	144	4.2
		コミュニケーションII	3	3	117	42	10	23.8	23	54.8	7	16.7	2	4.8
		コミュニケーションIII	59	59	2525	1513	199	13.2	879	58.1	338	22.3	97	6.4
		ベーシック外国語	141	113	4820	2498	931	37.3	1362	54.5	164	6.6	41	1.6
		情報活用基礎	9	9	1476	914	138	15.1	521	57.0	194	21.2	61	6.7
1-①	あなたは、この科目を受講したことにより、「 <u>情報処理能力</u> 」を養うことができましたか。と思いますか。	情報活用演習	9	9	590	443	118	26.6	248	56.0	59	13.3	18	4.1
		すべての領域科目												
1-④	あなたは、この科目を受講したことにより、「 <u>社会でも通用する基礎力</u> 」を養うことができましたか。 (「社会でも通用する基礎力」とは、専門分野の正確な知識、専門分野以外の幅広い教養、人の話を正確に理解できる能力、相手が理解できる様に自分の意見を論理的に述べる能力、協調性などを言います。)	人文科学領域	25	25	2350	1250	196	15.7	661	52.9	305	24.4	88	7.0
		社会科学領域	29	29	3235	1872	500	26.7	1043	55.7	279	14.9	50	2.7
		自然科学領域	13	13	856	481	83	17.3	265	55.1	110	22.9	23	4.8
		外国語領域	28	23	451	179	36	20.1	99	55.3	39	21.8	5	2.8
		複合領域	48	48	4511	2586	774	29.9	1530	59.2	245	9.5	37	1.4
		すべての領域科目												
	あなたは、この科目を受講したことにより、「 <u>実践的な応用力</u> 」を養うことができましたか。 (「実践的な応用力」とは、問題を発見する能力、問題を解決する道筋を考える能力、解決まで実行できる能力を言います。)	人文科学領域	25	25	2350	1250	189	15.1	603	48.2	368	29.4	90	7.2
		社会科学領域	29	29	3235	1871	428	22.9	984	52.6	382	20.4	77	4.1
		自然科学領域	13	13	856	480	79	16.5	239	49.8	138	28.8	24	5.0
		外国語領域	28	23	451	182	35	19.2	87	47.8	52	28.6	8	4.4
あなたは、この科目を受講したことにより、「 <u>大学院教育に向けての基礎能力</u> 」を養うことができましたか。と思いますか。	複合領域	48	48	4511	2587	673	26.0	1468	56.7	406	15.7	40	1.5	
	すべての基礎科目	136	134	9452	6009	1404	23.4	3268	54.4	968	16.1	369	6.1	

(出典：平成 21 年度（前期）学生授業評価アンケート集計結果)

資料 1-1-4 外国語教育の企画，立案，実施体制

広島大学における英語教育カリキュラムと授業展開



教養教育（指定科目）

・各期中頃に TOEIC IP テストを実施 → 習熟度別編成，成績評価に活用

1年次前期 2科目	コミュニケーション IA (話すこと中心)	コミュニケーション IB (読むこと中心)
1年次後期 2科目	コミュニケーション IIA (書くこと中心)	コミュニケーション IIB (聞くこと中心)
2年次前期 1科目	インターメディアット・カンパセーション (会話中心)	オーラル・プレゼンテーション (口頭発表中心)
	エクステンシブ・リーディング (読解中心)	コミュニケーション・ライティング (作文中心)
2年次後期 1科目	メディア・リスニング (聴解中心)	チャレンジング・TOEIC (R) (TOEIC テスト対策中心)

2年次前後期は、各期、6科目から1科目ずつ選択

教養教育（領域科目）

・上級者向けクラス，英米文化・文学に関する演習クラスなど

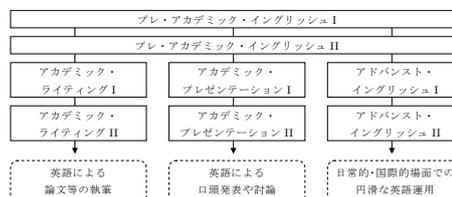
英語プロフェッショナル養成特定プログラム

・全学部からの希望者を選抜 → 仕事で・研究で「英語が使える」人材養成

2年次前期 2科目	英語語彙運用スキルアップ (ボキャブラリー・ビルディング中心)	英語口頭表現スキルアップ A (リスニング中心)
2年次後期 2科目	英語口頭表現スキルアップ B (スピーキング中心)	英語文章表現スキルアップ A (リーディング中心)
3年次前期 1科目	英語文章表現スキルアップ B (ライティング中心)	
3年次後期 1科目	英語口頭発表スキルアップ (プレゼンテーション中心)	

大学院共通科目における英語教育

- ・どの研究科に所属していても履修可能
- ・大学院生のニーズに特化した教育課程
(論文執筆，口頭発表，日常的な交流)
- ・留学プログラムや海外インターンシップ事業との連携



学年や立場を問わずに活用できる英語学習機会や授業科目

◎教養教育（大学院生も利用可能）

○マルチメディア英語演習 : e-learning による英語学習と単位認定

○英語圏フィールドリサーチ : 英国 Exeter 大学，米国 Hawaii 大学で研修と単位認定

◎学習支援活動（学生・職員・教員すべてが利用可能）

○英語研修プログラム : 週1回10週間完結の課外授業

○学習支援室 : 個別の質問に対応

◎自己啓発活動

○各種テストの学内実施 : TOEIC 公開テスト，TOEFL ITP，英検など

○講演会やシンポジウムの開催 : 英語教員志望者や現職教員への機会提供

(出典：外国語教育研究センター会議資料（抜粋）)

資料 1-1-5 外部資格試験等の結果

【英語プロフェッショナル養成特定プログラム】

実用英語技能検定試験	合格者数 (66名中)
準1級	23名
1級	1名

【TOEIC® IP 平均点および標準偏差 (上段：平均点, 下段：標準偏差)】

	H18年 5月	H19年 2月	H19年 5月	H20年 2月	H20年 5月	H20年 11月	H21年 2月	H21年 5月	H21年 11月
平成18年度生	602.4 (89.4)	666.3 (82.4)		690.0 (125.0)			700.0 (130.5)		
平成19年度生			596.4 (98.1)	616.6 (101.4)			688.2 (113.7)		
平成20年度生					553.3 (109.3)	598.9 (92.0)		561.1 (184.7)	648.9 (147.7)

(注：TOEIC® IP 大学生の全国平均点 430 点,)

【TOEIC® SW IP 平均点および標準偏差 (上段：平均点, 下段：標準偏差)】

	H20年7月		H21年1月		H21年5月	
	S	W	S	W	S	W
平成19年度生	129.4 (20.1)	132.8 (28.0)	127.8 (16.6)	147.8 (19.0)		
平成20年度生					112.0 (25.7)	122.0 (18.1)

(注：S: Speaking, W: Writing, TOEIC®SW IP 大学生の全国平均点 S111.6 点, W116.1 点)

【ドイツ語プロフェッショナル養成特定プログラム】

ドイツ語技能検定試験	合格者数	合格者平均点(合格点)	備考
2級	7名 (14名中)	64.95 (55.40)	一般合格率 40.16%
3級	11名 (12名中)	76.25 (66.20)	一般合格率 51.32%

(出典：外国語教育研究センター会議資料 (抜粋))

資料 1-1-6 学術論文の質の検証結果

(平成20年度発表分)

学生所属研究科	件数	教員等による評価					
		A	%	B	%	C	%
総合科学研究科	28	3	10.7%	21	75.0%	4	14.3%
文学研究科	77	32	41.6%	35	45.5%	10	13.0%
教育学研究科	158	32	20.3%	66	41.8%	60	38.0%
社会科学研究科	25	3	12.0%	12	48.0%	10	40.0%
理学研究科	106	62	58.5%	40	37.7%	4	3.8%
先端物質科学研究科	49	23	46.9%	25	51.0%	1	2.0%
保健学研究科	50	22	44.0%	16	32.0%	12	24.0%
工学研究科	253	41	16.2%	109	43.1%	103	40.7%
生物圏科学研究科	125	37	29.6%	70	56.0%	18	14.4%
医歯薬学総合研究科, 医学系研究科	185	41	22.2%	79	42.7%	65	35.1%
国際協力研究科	55	10	18.2%	33	60.0%	12	21.8%
合 計	1,111	306	27.5%	506	45.6%	299	26.9%

(注)

「A」：学術的に非常に高いレベルの論文

「B」： ” 高いレベルの論文

「C」： ” 標準的なレベルの論文

(出典：大学院課程会議資料)

資料 1-2-1 教員養成広大スタンダード（抜粋）

教員養成広大スタンダード（中・高等学校版）（H21.7.17 版）

- ① 規準1は、教科の指導内容に関すること
- ② 規準2～4は、教科の指導法に関すること
- ③ 規準5～7は、生徒指導及び学級・学校経営に関すること
- ④ 規準8は、資質・能力に関すること

という枠組みを設定しており、レベル1～3は、以下のように統一的に峻別している。
 レベル1は、教育に関する知識・技能を持っているが、教育実践で転移できない状態
 レベル2は、教育に関する知識・技能を持っており、教育実践である程度適用できる状態
 レベル3は、教育に関する知識・技能を持っており、教育実践で本学が求めるレベルに到達している状態
 なお、レベル1から3に加えて、「最終的に目指す教師像」を記載している。

規準1：教科の指導内容に関して十分な知識や技能を獲得している。			
レベル1	レベル2	レベル3	最終的に目指す教師像
○断片的で系統性には欠けるが、教科の指導内容に関する知識や技能を持っている。	○一部不十分な箇所が見られるが、教科の指導内容に関する知識や技能を概ね獲得している。	○教科の指導内容に関する知識や技能を、担当する分野の授業設計や授業実践に適用できる程度に獲得している。	●教科の指導内容に関する知識や技能を系統的に理解し、幅広い分野の授業設計や授業実践ができるほどに十分に獲得している。
規準2：学習や発達に関する理解を統合した指導計画を立案することができる。			
レベル1	レベル2	レベル3	最終的に目指す教師像
○単元レベルでの指導計画を立案する力は未熟であるが、1時間の指導計画は立案することができる。	○生徒の学習の到達状況や発達段階を考慮できてはいるが、単元の指導計画を立案することができる。	○生徒の学習の到達状況や発達段階を考慮して、単元の指導計画を立案することができる。	●生徒の学習の到達状況や発達段階を考慮して、単元の指導計画を柔軟に立案することができる。
規準3：教材や指導法などについて知識を持ち、授業実践ができる。			
レベル1	レベル2	レベル3	最終的に目指す教師像
○授業の場面で運用はできないが、教材や指導法に関する知識を持っている。	○あらかじめ準備している教材や指導法を用いれば、概ね授業実践ができる。	○あらかじめ準備している教材や指導法を用いて円滑に授業実践ができる。	●あらかじめ準備している教材や指導法を、授業場面や状況など必要に応じて変えながら授業実践ができる。
規準4：生徒の学習を評価することができる。			
レベル1	レベル2	レベル3	最終的に目指す教師像
○単元あるいは単位時間の評価計画を立案するのは未熟であるが、評価方法に関する知識を持っている。	○授業実践において、十分な評価を実施することはできないが、単元あるいは単位時間の評価計画を立案することができる。	○授業実践において、単元あるいは単位時間の評価計画に基づいて、生徒の学習を評価することができる。	●授業実践において、あらゆる単元で評価計画に基づいて、生徒の学習を評価することができる。
規準5：生徒を理解し、信頼的な関係を築いて指導することができる。			
レベル1	レベル2	レベル3	最終的に目指す教師像
○生徒と信頼的な関係を築くことはできないが、生徒の興味や関心に対する知識を持っている。	○担当している一部の生徒とは信頼的な関係を築いて指導することができる。	○担当しているほとんどの生徒と信頼的な関係を築いて指導することができる。	●教師らしい態度で自信を持って教育活動を行うなど、すべての生徒と信頼的な関係を築いて指導することができる。
規準6：学級経営などを理解している。			
レベル1	レベル2	レベル3	最終的に目指す教師像
○学級経営の意義や学級経営案が備えるべき諸要素に関する知識を断片的ではあるが持っている。	○学級経営の意義や学級経営案が備えるべき諸要素についての知識を持ち、指導助言があれば指導計画を立案することができる。	○学級経営の意義や学級経営案が備えるべき諸要素についての知識を持ち、担当するクラスについて指導計画を概ね自力で立案することができる。	●学級経営の意義や学級経営案が備えるべき諸要素についての知識を持ち、多様な生徒を想定した指導計画を自力で立案することができる。
規準7：学校や教育を取り巻く基礎的な知識を獲得している。			
レベル1	レベル2	レベル3	最終的に目指す教師像
○教育に関する法令の内容や現在の教育状況に関する知識を断片的ではあるが持っている。	○教育に関する法令の内容や現在の教育状況に関する知識は十分ではないが、実習校の状況のある程度理解している。	○教育に関する法令の内容や現在の教育状況に関する知識を概ね獲得し、実習校の状況を概ね理解している。	●教育に関する法令の内容や現在の教育状況に関する知識を十分獲得している。
規準8：教育者に求められる資質や能力（使命感、教育的愛情、対人関係能力など）を備えている。			
レベル1	レベル2	レベル3	最終的に目指す教師像
○同僚との円滑なコミュニケーション、教育活動の自省、生徒への配慮等については課題があるが、教職への意欲や規範意識を有している。	○対人関係等の実際の活動場面では適切に表現できないが、教職への使命感、教育的愛情等を有している。	○教職への使命感、教育的愛情、対人関係能力など教師としての資質や能力を概ね備えている。	●教職への使命感、教育的愛情、対人関係能力など教師としての資質や能力を十分に備えている。

（出典：教員養成会議資料）

資料 1-2-2 英語の自学自習コンテンツの利用状況

平成21年度 オンラインTOEIC準備講座利用状況

受講者数

コース	サブコース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初中級コース プラス	リスニング	5	11	4	4	2	4	4	3	3	5	1	2
	リーディング	5	12	5	3	3	4	3	4	3	4	0	1
	TOEIC(R)テスト演習	5	6	4	4	2	1	4	1	0	3	2	2
	TOEIC(R)パート別テスト演習	3	4	0	1	1	4	3	2	0	1	0	0
	中間/修了テスト	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体 ^{※1}	9	17	7	5	4	5	9	6	4	6	2	3
スタンダードコース	レベル診断テスト	19	26	12	6	5	7	18	7	2	2	4	5
	リスニング	16	30	26	22	6	12	26	28	12	3	12	8
	リーディング	18	29	26	27	7	9	26	20	14	3	7	8
	TOEIC(R)テスト演習	11	19	13	9	2	5	14	12	2	3	4	4
	全体	23	40	35	33	10	16	43	32	18	7	15	11

受講回数

コース	サブコース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初中級コース プラス	リスニング	38	38	20	20	5	15	19	7	12	11	3	13
	リーディング	39	64	23	8	8	16	10	7	7	25	0	13
	TOEIC(R)テスト演習	15	23	6	14	6	4	21	1	0	11	2	7
	TOEIC(R)パート別テスト演習	27	6	0	5	6	13	5	16	0	3	0	0
	中間/修了テスト	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	119	132	49	49	25	48	55	31	19	50	5	33
スタンダードコース	レベル診断テスト	36	47	22	12	9	12	29	13	3	3	8	10
	リスニング	135	250	256	264	14	39	163	119	28	15	38	53
	リーディング	153	234	239	234	24	28	149	108	43	9	62	46
	TOEIC(R)テスト演習	33	62	87	74	7	51	131	32	2	4	7	11
	全体	357	593	604	584	54	130	472	272	76	31	115	120

新規受講登録者数

コース	申請	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初中級コース プラス	個人	12	23	1	4	1	4	11	5	3	1	2	5
	クラス	17	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
スタンダードコース	個人	23	40	5	10	8	12	22	7	4	5	7	10
	クラス	17	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0
	全体 ^{※2}	45	58	5	12	9	14	31	10	5	5	9	13

※1 受講者数の「全体」は、1人が複数のサブコースを受講した場合は1と数えた、純数。

※2 新規受講登録者数の「全体」は、1人が複数のコースに登録した場合は1と数えた、純数。

(出典：教員養成会議資料)

資料 2-1-1 地域貢献研究採択状況

◎ 「地域貢献研究」事業

年度	研究代表者名	研究プロジェクト名	
		提案者名	提案課題名
平成 20 年度	大学院総合科学研究科 開発 一郎	東広島市西条盆地黒瀬川中・上流域の地下水動態と水資源評価	
		東広島市生活環境部	東広島市西条盆地黒瀬川中・上流域の地下水調査
	大学院総合科学研究科 海堀 正博	土砂災害防止のための地域の素因調査と雨量指標R'を使った誘因の地域特性の把握	
		東広島市総務部	東広島市の地域特性を考慮した「土砂災害に対する雨量指標R'の適用」に関する研究
		出原の里山を守り伝える会	自然災害・動物被害のない豊かで魅力的な出原の里山づくり-特に、土砂災害防止と環境保全の観点から-
	大学院文学研究科 高永 茂	民俗学者宮本常一の著書・蔵書活用法プロジェクト	
周防大島文化交流センター		周防大島文化交流センターが所蔵する民俗学者・宮本常一の著書・蔵書に関するデータベースの構築とその活用法についての研究	
大学院教育学研究科 落合 俊郎	大学の機能を活用した発達障害者就労支援プログラムの開発に関する実践研究		
	広島県 社会福祉法人つつじ	一学生ジョブサポーターを活用した発達障害者の職場体験実習の取り組みについて～ 大学の機能を活用した発達障害者就労支援プログラムの開発に関する実践研究 ～学生ジョブサポーターを活用した発達障害者の職場体験実習の取り組みについて～	
大学院保健学研究科 小野 ミツ	高齢介護者のQOL維持と地域ケアシステムに関する研究		
	広島県看護協会訪問介護ステーション (こい)	高齢介護者のQOL維持と地域ケアシステムに関する研究	
ほか、計9件採択 (20,000千円配分)			
平成 21 年度	大学院総合科学研究科 山田 俊弘	宮島におけるシカの行動圏調査と植生への影響	
		廿日市市 農林水産課	宮島におけるシカの行動圏調査と植生への影響
	大学院文学研究科 岡橋 秀典	東広島市における景観まちづくりのための基礎的調査と方策の提案-広島大学総合博物館との連携による学習の場の構築を通して	
		(社) 東広島市観光協会・東広島市都市部都市計画課	東広島市における景観まちづくりのための基礎的調査と提案
	大学院文学研究科 河西 英通	民俗学者・宮本常一の撮影した写真ネガフィルムのデジタルデータ化	
		周防大島文化交流センター	民俗学者・宮本常一の撮影した写真ネガフィルムのデジタルデータ化
大学院教育学研究科 由井 義通	少子・高齢化が進展しつつある郊外住宅団地(戸建て・集合住宅)の再生について既存団地(ニュータウン)の現状と再生(高陽ニュータウンを題材として)		
	呉市・広島県 広島県住宅供給公社	少子・高齢化が進展しつつある郊外住宅団地(戸建て・集合住宅)の再生について 既存団地(ニュータウン)の現状と再生(高陽ニュータウンを題材として)	
大学院保健学研究科 浦辺 幸夫	中学校におけるスポーツ障害への対応や救急体制の確立のための基礎的研究-生涯にわたる心身の健康に関する教育・学習の充実をはかるために-		
	広島市中学校教育研究会養護部会 2班	「生涯にわたる心身の健康に関する教育・学習の充実をはかる」	
ほか、計11件採択 (20,000千円配分)			

◎ 「地域貢献発展研究」事業

- 平成20年度
 - ・ 提案プロジェクト件数 3件
 - ・ 採択件数 3件 (12,510千円配分)
- 平成21年度
 - ・ 提案プロジェクト件数 11件
 - ・ 採択件数 4件 (14,604千円配分)

(出典：社会連携・情報政策室作成)

資料 2-1-2 産学官連携による新商品発表会

産学官連携による新商品発表会の記者会見を行いました

掲載日:2009年11月4日

リンク用URL: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/news/show/id/6617>



広島大学と尾道市および食品メーカー3社との連携により、尾道市瀬戸田町・因島などの特産品である「ハッサク」を使用した新商品が誕生し、「広島大学創立60周年」を機に発表し記者会見を行いました。

広島大学は「平成16年度広島大学地域貢献研究」として、尾道市「シトラスパーク瀬戸田」のかんきつ類の機能評価を行ってきました。尾道市との共同研究成果をさらに発展させ、地域活性化に生かすべく、尾道市および地元食品メーカーの協力により、尾道産ハッサクを使用した商品の開発に至りました。

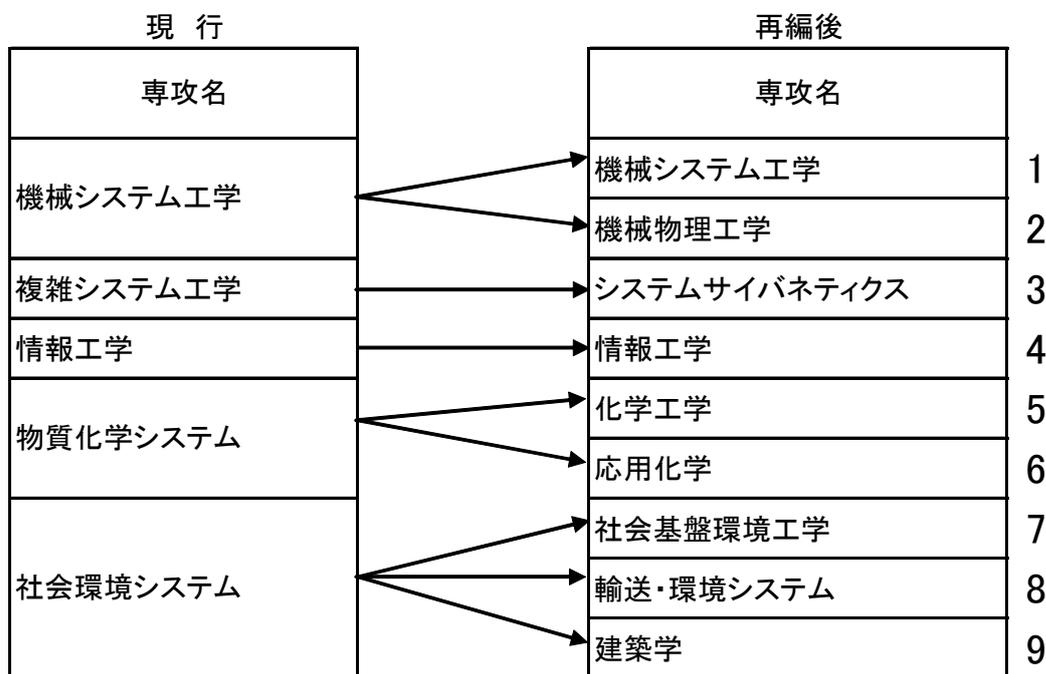
今回のプロジェクトは、シンボルマークやパッケージデザインなども含め、大学が持つ人的資産を地域や一般企業の活性化に役立てていただくものであり、「新たな産学官連携」のモデルケースとなると期待できます。

開発した新商品は、次のとおりで、11月7日の第3回ホームカミングデーで試食・試飲、即売会を行います。今後は、広大生協などで販売予定です。

(出典：広島大学公式 web サイト「お知らせ」)

資料 2-1-3 工学研究科の新専攻に対応する産業分野一覧

○専攻の移行表（博士課程前期・後期）



○対応する産業分野一覧

- 1 機械システム工学専攻
機械工学で、システム・計測・制御・コンピュータ利用を中心とした分野
- 2 機械物理工学専攻
機械工学と材料工学の融合分野、新エネルギー開発、環境、新素材開発・利用を中心とした分野
- 3 システムサイバネティクス専攻
電気・電子、機械、医工学の融合分野
福祉・医療、電力、電気・システムなどの分野
- 4 情報工学専攻
情報・通信分野
- 5 化学工学専攻
化学工学を基礎としたエネルギー、材料開発、化学プロセス分野
- 6 応用化学専攻
機能性化学材料開発・利用分野
- 7 社会基盤環境工学専攻
土木・環境工学分野
- 8 輸送・環境システム専攻
船舶・海洋・物流分野
- 9 建築学専攻
建築設計・デザイン分野

(出典：広島大学大学院工学研究科の専攻再編に係る事前伺い資料【抜粋】)

資料 2-1-4 地域連携センターにおける学術相談件数の状況

年 度	受付件数
平成16年度	387
平成17年度	576
平成18年度	556
平成19年度	608
平成20年度	448
平成21年度	503
計	3,078

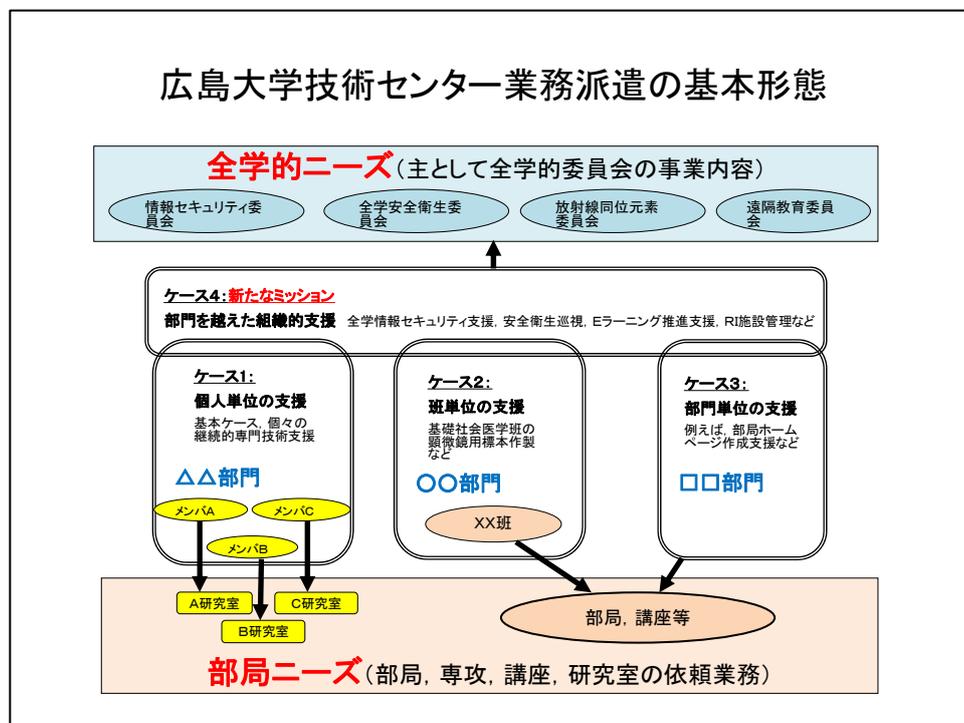
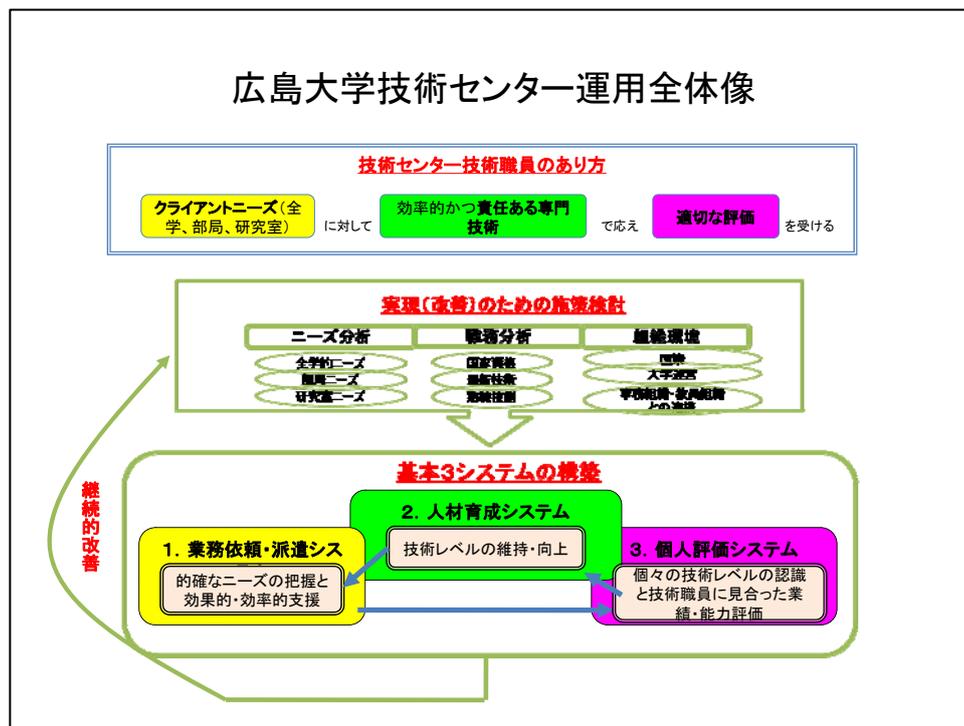
(出典：社会連携・情報政策室作成)

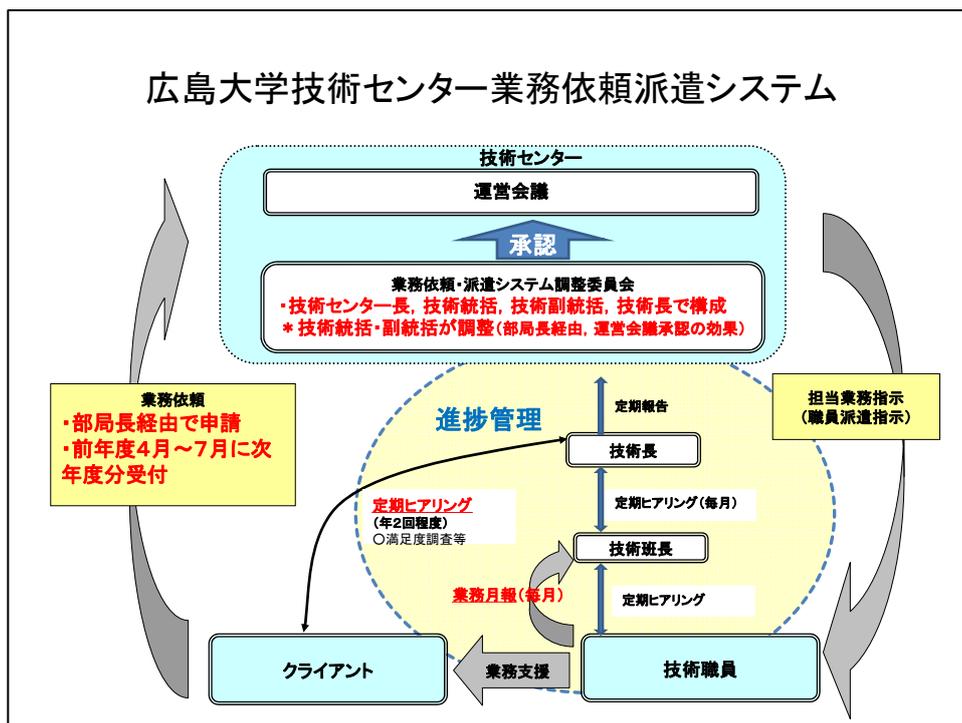
資料 2-1-5 科学わくわくプロジェクト実施状況

事業名	参加状況			備考
	平成20年度	平成21年度	計	
科学塾研究室	18	8	26	
ジュニア科学塾	14	24	38	
サイエンスレクチャー	155	137	292	広島市会場と福山市会場 で開催
小学校の先生のための 理科ひろば	20	20	40	

(出典：科学わくわくプロジェクト事業報告書より転記)

資料 2-2-1 技術センター運営体制図





(出典：技術センター階層別研修－初任者研修 資料)